

令和4年度 職員（個人）英語自校評価（％） 下段は保護者評価

評価の窓 4：良好 3：やや良好 2：努力を要する 1：かなり努力を要する 0：わからない					
評 価 項 目	4	3	2	1	0
児童は、英語に興味をもって学習しようとしている。	0 26	75 34	25 27	0 10	0 3

英語科について、本校職員の自己評価は、どちらかといえば良好という結果となっている。

小学校英語科の目標は、「実際のコミュニケーションにおいて、自分の考えや気持ちなどを伝え合う基礎的な力を養う」とことと設定され、その目標達成のため、本校でも実践を重ねてきている。

昨年度より、児童の英語での対話を中心とした授業を展開している。やりとりを中心とした授業を行うことで、英語で「できた・わかった」を実感することができるようになってきた。しかし、今までのマスク着用の影響もあり、話すことそのものに対する抵抗を感じている児童がいる。

低学年については、英語遊びを通した学びであるため、遊びの楽しさによって、学び進めることができるが、学年が上がるにつれて、学習内容も難しくなり、子供が英語を学ぶ目的を見失ってくる。それに伴い、子供のモチベーションが下がり、教師も英語指導に対する迷いが出てきたことが、今回の自己評価の結果に表れてきている。来年度は、「児童が目的をもってコミュニケーションする」ことを大切にしたい。

小学校に英語科が導入された理由として、小学校段階では「音声を柔軟に受け止めるのに適していること」と「言語や文化に対する関心や意欲を高めるのに適していること」といった子供の発達特性がある。音声中心とした授業を進め、高学年では、音声で慣れ親しんだことを書くという過程にしていきたい。